

初心者はず ホール神楽で その魅力にふれるべし

ホールでの公演は司会者があらすじを紹介したり、事前にあらすじの書かれた紙が配布されることが多く、セリフやストーリーを理解しやすいのが特徴。神楽門前湯治村の夜神楽では、衣装の試着体験や団員さんとの記念撮影もできて神楽がぐっと身近になります。

小ネタ
大集合

2。知っていると
神楽が楽しくなる
15のこと

花形は鬼

舞で最も難しいのは「鬼」。動きだけで体を大きく見せたり、ど派手なターンを繰り返したり、高い技術が必要とされる役どころです。もちろん「神」がしっかりしていないと鬼が映えないため、「神」も大事な役どころであることは言うまでもありません。



ズバリ、
人気の演目は
『滝夜叉姫』&
『紅葉狩』&
『葛城山』

何よりも観客の 拍手が原動力

観客の唯一の意思表示は拍手。団員さんも拍手で舞に熱が入り、より盛り上がります。演目も佳境に差し掛かり、体力的につらくなってきた団員さんの背中を押すのも観客の拍手。凄いなと思ったら迷わず拍手や合いの手を入れましょう。



太鼓のリズムで全ての演者を引っ張る大太鼓。総監督的な役割で、団長が担当していることが多いポジションです。大太鼓のリズムが乱れてしまうと演目の全てがバラバラになってしまうため、大太鼓にかかるプレッシャーは想像以上。演目中ほとんどたたき続ける体力は、舞い手以上に必要といえます。

「激しい立ち合いが長く続く『鬼よ早く死んでくれ』と思うことがあります」(某神楽団 大太鼓担当談)



舞台上では
大太鼓が一番偉い

実は 難易度が高い!? 『ちゃり』役

『悪狐伝』の和尚さんや『戻り橋』の傘売り善兵衛など、演目中に一人で舞台に立ち、動きやフリートークで会場を盛り上げる『ちゃり』役。時事ネタやご近所ネタを駆使して、会場を爆笑させます。ネタの選択を間違えてしまうと会場を静まりかえらせてしまうこともあるという、ベテラン団員にとってもハードルの高い役どころです。

HOW TO

鑑賞

～神楽の楽しみ方教えます～

市内で22もの神楽団が活動し、伝統芸能としてはもちろん観光資源としても脚光を浴びる『ひろしま安芸高田神楽』。市内では様々な競演大会やイベントが行われ、1年を通して神楽が楽しめる環境が整っています。県内外に多くのファンを持つ神楽ですが、『地元にいるのにまだ神楽を見たことがない』『楽しみ方がよく分からない』という人はいませんか？今回の特集では、知っているのとちょっとだけ神楽鑑賞が楽しくなる小ネタを集めてみました。知れば知るほど「神楽、見に行ってみようかな?」、そんな気持ちが湧いてくるはずです。

神楽



1。まずは知ってほしい基礎知識

会場編

上演する会場にも特徴があります。大きく分けると、入場料を支払って観覧する“ホール神楽”と地域の神社などで行われる“奉納神楽”の2種類。“ホール神楽”は、定期公演が行われている神楽門前湯治村や、文化センターなどで開催されているもので、それに対して“奉納神楽”は秋の豊作に感謝して地域の神社などで行われます。各神楽団は地元で行う奉納神楽をとっても大切にしています。



神楽門前湯治村の
神楽ドーム



文化センター
(クリスタルアージュ)



神社で行われた
奉納神楽の様子

舞編

ひろしま安芸高田神楽は、戦前に舞われていた旧舞と戦後に登場した新舞の2種類があります。安芸高田市が発祥の地とされる新舞は、衣装や面の早変わり、素早いアクション、ドライアイスや手蜘蛛などを使ったど派手な演出で魅了します。逆に古事記や日本書記がベースになっている旧舞はゆっくりとした動きの中で感情や雰囲気表現する高い技術が必要。観覧回数を重ねる度に魅力を増す通好みといえるでしょう。

主な登場人物



鬼
勧善懲悪の
分かりやすい
ストーリーで初
心者も安心



姫
善役と悪役が
激しくぶつかる
『立ち合い』が
超かっこいいの



神(しん)
観客からの拍手
喝さいの中、戦
いに勝った喜び
を舞う『嬉し舞』
は私の見せ所

使用する楽器はこちら



大太鼓



小太鼓



手打ち鉦



笛

